

Ⅲ 離床を行う上での基礎技術

Ⅲ -6. フィジカルアセスメント（消化器状態）

大項目	中項目	小項目	リンク・備考	回答	レベル
□Ⅲ-6.1 視診	□Ⅲ-6.1.1 腹部の視診で評価 できることにつ いて理解している	□腹部の視診で評価できることについて説明でき る	J-07 フィ実		○
	□Ⅲ-6.1.2 腹部の視診の方法 について理解して いる	□腹部を視診にて評価できる	J-07 フィ実 フィジ P107-P108		○
□Ⅲ-6.2 聴診	□Ⅲ-6.2.1 腹部の聴診位置と 病変部位について 理解している	□腹部の聴診位置と病変部位を確認できる	J-07 フィ実		○
	□Ⅲ-6.2.2 聴診部位について 理解している	□聴診部位を確認できる	J-07 フィ実 フィジ P108		○
		□腸雑音を聴取できる	フィジ P108-P109		○
	□Ⅲ-6.2.3 聴診器を適切に選 択することができる	□目的にあった聴診器を選択できる	J-07 フィ実		○
	□Ⅲ-6.2.4 適切な聴診方法に ついて理解してい る	□腹部を聴診にて評価できる	J-07 フィ実 フィジ P108-P109		○
	□Ⅲ-6.2.5 腸蠕動音とその特 徴について理解し ている	□1分間の腸蠕動音の聴取から病態を推察するこ とができる	J-07 フィ実 フィジ P108-P109		◇
	□Ⅲ-6.3 打診	□腹部の打診により得られる異常打診音について 説明できる	J-07 フィ実 フィジ P109-P110		◇
	□Ⅲ-6.3.2 腹部の打診方法に ついて理解してい る	□腹部の打診方法について説明できる	J-07 フィ実 フィジ P109-P110		◇
		□打診する順番について説明できる	フィジ P109		◇
	□Ⅲ-6.3.3 腹部の打診による 消化器官について 理解している	□消化器官の位置や異常について打診を用いて確 認できる	J-07 フィ実 フィジ P109		◇
□Ⅲ-6.4 触診	□Ⅲ-6.4.1 腹部の触診位置と 病変部位について 理解している	□腹部の触診位置と病変部位について説明できる	J-07 フィ実 フィジ P109-P110		○
	□Ⅲ-6.4.2 腹部の触診方法に ついて理解してい る	□腹部を触診にて評価するための観察準備がで きる	J-07 フィ実 フィジ P111		○

大項目	中項目	小項目	リンク・備考	回答	レベル
		□ 触診する順番について説明できる			○
		□ 浅触診・深触診の技術を用いて、腹部の状態を確認ができる			◇
		□ 腹部の異常を触診を用いて確認できる			◇
	□Ⅲ-6.4.3 腹部の触診時における筋性防御について理解している	□ 筋性防御について確認ができる	J-07 フィ実 フィジ P111-P112		◇
	□Ⅲ-6.4.4 腹部の触診時における反跳痛について理解している	□ 反跳痛の有無について確認できる	J-07 フィ実 フィジ P111		◇

大項目	中項目	小項目	確認印
／ 4	／ 14	／ 19	

中項目の点数は P153 に転記して下さい